

## トップブランドを維持し、更なる飛躍を求めてグローバルに展開する

台湾日立(股)は日系企業としては台湾で非常に長い歴史を持ち、ルームエアコンのトップブランドの地位を築き上げてきた。その一方で台湾国内市場だけではなく、輸出や海外への展開を積極的に行っている。また、空調機以外の分野にも事業展開をしており、日系企業のグローバル化の例として、また、台湾を通じた中華圏ビジネスの展開の例として、示唆に富む。今回は台湾日立(股)の高木恒治総経理にお話を伺った。



台湾日立(股)  
総経理高木恒治氏

### 台湾の空調機の歩みとともに

まず、御社の概要と沿革についてお聞かせ願えますか？

弊社は現在、ルームエアコン、パッケージ空調機、チラーユニット、空気清浄機、除湿機、冷凍機、圧縮機、ファンフィルタ・ユニット等の製造販売サービスを行っております。台湾では、桃園に工場があり、その他支店、サービスセンタ、物流センタなど全国に18ヶ所に展開しております。また、新荘にはR&Dセンターを設けています。

弊社の沿革としては、1965年に台湾現地資本との合弁で設立されました。当初はルームエアコンの窓型機の製造から始まりまして、その後パッケージエアコン、小型の冷凍機、チラーユニット、ファンコイルと徐々に取扱商品を広げてきました。1981年にはルームエアコンの輸出を始めております。

1986年に、それまでの台北県新荘の工場から桃園県の第一工場に移転し、1989年には桃園の敷地内に第二工場を建設しています。

1996年にフィリピンのスービックに輸出拠点と

して弊社の製造子会社を設立し、さらに2004年には販売会社を設立しました。

一方、2002年には中国の「広州日立冷機」(チラーユニットの製造)にも出資をしております。その後、「青島海信日立空調系統」(マルチタイプのパッケージ空調機の製造)へも出資をしております。

そして、2004年4月には弊社100%出資で、中国の蘇州にクリーンルームなどに使用されるファンフィルタユニットの拡大を図るため「台日科技(蘇州)」を設立しました。

### クーラーのトップブランド

台湾において御社のルームエアコンは高い評価を得ていますが、トップブランドを維持するにあたってどのような点を配慮されていますか？

弊社のルームエアコンは台湾においても、トップブランドとしての高い評価をいただいております。この高い評価を維持するためには、販売面並びに製品開発及びサービスの面で常に努力を欠かせません。弊社の製品は「静音」「高信頼性」「高度なサービス

## 日本企業から見た台湾

体制」と言う点が高い評価につながっており、これらの維持と改善に努力しております。また、販売店への支援や、TV、新聞でのブランドイメージのアップを図っています。また、その支援として、毎年新しい企画を考えております。

製造面では、消費者のニーズは常に変化していますが、最近では環境、健康、快適な生活空間と言うテーマが重要視されています。このため、殺菌、除塵、防臭と言った機能を付加し、更に、エアコンの冷媒をオゾン破壊の無いものに切り替え環境意識の高まりに対応しています。その他、省エネとして入力当たりの冷暖房能力アップにも製品開発の焦点を合わせています。

また、現在のトレンドとしては窓型のタイプの需要の縮小、セパレート型、特にインバーター機の拡大が顕着になってきており、これらのラインアップに重点的に開発投資を進めています。

### 華人ネットワークを活かした中国投資

御社はフィリピンのみならず、中国へも展開されていますが、日系企業としては非常にグローバルな動きですね。中国への展開は主にどのようなねらいからですか？

弊社は海外へも積極的に展開をしておりますが、中国蘇州の現地法人は、液晶、半導体関係のクリーンルームの生産、現場に使われるファンフィルタユニットの製造販売を行っております。現在は台湾系企業と日系企業向けが主です。上海、蘇州、昆山に台湾系企業がたくさん進出している事から、蘇州への進出を決めました。また、ファンフィルタユニットの他に、冷凍機も扱う予定です。冷凍機は台湾でも伸びていますが、中国でも今後大幅に伸びていくと思われるため、間もなく生産、販売を開始します。現在、5名の台湾人が出向していますが、冷凍機の販売の本格化とともにさらに出向者を増やして販売

面も強化していく予定です。

拡販活動は子会社で主体的に行っていますが、台湾日立でも営業情報を提供しながら、受注活動を行っております。

台湾日立には台湾人の華人ネットワークがあるために中国で非常に展開し易い状況にあります。この点、日本から日本人が行くよりもずっと有利だと思います。

また、今後も台湾日立で競争力をつけ、事業展開できるものは合併ではなくて独資で展開するつもりです。

### 一流企業になる

御社は全部で約1300名の従業員がいらっしゃいますが、これを日本人として一つにまとめるのは苦労されていると思いますが、いかがでしょうか？

弊社の従業員を束ねるためには、何よりもビジョンを打ち出す事が重要だと考えております。このため、台湾人の幹部を集めて徹底的に議論してビジョンを定めました。中核となるビジョンは「一流企業になる」と言う事です。このビジョンを毎年の経営方針に当てはめております。

これは単に業績を良くするというだけではなく、もちろん業績は結果としてついてくるわけですが、それ以上に「社会への貢献」、「ブランドイメージの向上」、「明るく活力ある職場作り」、「プロフェッショナル集団」と言った事が実現できて、初めて一流企業の仲間入りができるのだ、と言うことを常に伝えるようにしています。そうすると1300人の従業員がいても、おのずと皆一つにまとまってくると確信しています。

- 本日はありがとうございました。